

アゼルバイジャンの陸上交通ルート（2）ザングズル回廊又は迂回路の計画

前号で紹介した、トルコからナヒチバン、さらにアゼルバイジャン本土に至る物流の将来性に関して、これを実現するルートとして期待されるのが、「ザングズル回廊」と呼ばれる、アゼルバイジャン本土とナヒチバンを結ぶアルメニア領内の交通路（道路、鉄道：約 40km）です。



現在、アゼルバイジャンはアルメニアとの国交正常化を目指した平和条約締結交渉を進めるとともに、ザングズル回廊の開通に向け協議を続けています。ただし、同回廊通過に係る管理の態様（アルメニアは主権行使として通常の国境管理を主張、アゼルバイジャンはその軽減ないし便宜的措置を要求）を巡り、協議は難航しています。

このため、アゼルバイジャンは最近、ザングズル回廊を迂回する、イラン経由ルートの開発に着手しました。このルートは、アグバンド（上記地図参照）のイラン国境（アラス川）に新規建設される橋梁と国境税関施設からイランに入り、同国を通過後再びアゼルバイジャン（ナヒチバン）へと戻る経路です。10 月、両国は橋梁等の起工式を催し、アゼルバイジャンは橋梁等建設に 1,400 万マナト（800 万ドル）の予算を充てることを大統領令により決定しました。

ザングズル回廊、イラン経由迂回路のいずれにせよ、近い将来、アゼルバイジャン本土とナヒチバンを結ぶ交通ルートが開通する見込みで、アゼルバイジャンのほか、トルコ、イラン、ロシアを始めとする周辺国も同ルートの活用に強い関心を示しています。

（以上）